

隣接科学における地理学の有用性

—経済学分野における個人的体験—

高橋重雄

青山学院大学経済学部

本稿では2021年6月に行った第14回地理空間学会大会における会長講演に基づき、隣接科学分野において地理学のどのような面が有益なものとなりうるのかという点に関して、経済学分野の場合を例に、みずからの経験に基づき予察的な検討を行った。具体的には、地理学で培うフィールドワークとGISに関する素養の有用性について検討した。地域活性化に関わる活動に学生や教職員が参加する機会も増えている中、地理学教育で養われたフィールドワークを含む地域調査の経験と技術を活かして地理学分野出身者が貢献できる部分は大きい。GISは地理学分野だけでなく関連分野においてもその重要性が増しており、この点においても地理学分野出身者が大いに貢献できるだろう。

キーワード：地誌学派、大塚の地理学、フィールドワーク、地域活性化、GIS

I はじめに

本稿は、2021年6月に行った第14回地理空間学会大会における会長講演に基づいたものである。

会長講演の内容は講演者の研究テーマに関するものが多いが、取り組んだ研究テーマが変わってきたこともあり、今回の講演では、筆者がこの30年間取り組んできたこととして、大学の経済学部で地理学を教えてきたことに関するテーマを取上げることにした。

経済学部に入學する学生の多くは、これまでのところ、高校で地理を学んだ経験がない。しかし地理の授業に興味を示す学生は多く、そうした学生が筆者の担当する「経済地理学」や演習関係の授業を受講した。また今日の大学では実学志向が高まった面もあり、座学だけではなくフィールドワーク的な活動機会も増えている。そうした活動では、地理学分野で培った素養を活かすことができる。

日本の大学では、地理学に関する教育・研究を専門的に行う学部や学科は限られる。そのため大

学での教育・研究職に就く場合でも、その多くが隣接科学の学部などで地理学の教育・研究に従事することになる。経済学部就職した筆者の体験に基づき、地理学のこういった面が隣接科学において役立つと考えられるのかを検討することで、同じような立場に置かれた人々の参考になることを願う。

IIでは、筆者の所属する経済学部で行った産学官連携事業において、地理学で培った素養が役に立った事例を紹介する。IIIでは、フィールドワークを伴った連携事業で役立った地理学の基礎的な面について検討する。IVでは、経済学分野だけでなく他の社会科学分野においても注目されているGISについて検討し、Vで本稿をまとめる。

II フィールドワークを伴う連携事業での体験

地理学と同様に、経済学の内容も多岐にわたる。理論構築を行う研究もあれば、実証分析を行う研究もある。地理学における地誌と似たようなものに位置づけられるかもしれないが、各産業の実態について経済学の知見を含め概説する「産業